

笛吹市探訪

笛吹市の石造物 怪我や病気の治癒を祈る―みそなめ地蔵―

今回は、「みそなめ地蔵」を紹介
します。

「みそなめ地蔵」は、怪我をした
人や、病気になってしまった人が、
自分の体の悪くなったところと同
じ場所に味噌を塗り、治癒するこ
とを祈り、怪我や病気が治ったら
「よだれ掛け」を掛けてお礼のお
参りをしたお地蔵さんのことです。
このような風習は、いつ頃から始
まったのかはつきりとは分かりま
せんが、江戸時代にはすでに行わ
れていたようです。



八代町高家の「みそなめ地蔵」

八代町高家には、市の有形民俗
文化財に指定されている「みそな
め地蔵」があります。この「みそ
なめ地蔵」は、幅約75センチ、奥
行き約55センチ、高さ約25センチ
の蓮華座（れんげざ）の上に、座高
約82センチの地蔵が座っている石
造地蔵菩薩座像（せきぞうじぞうぼ
さつざぞう）です。江戸時代の寛文
（かんぶん）5（1665）年7月14
日に、平十という人が尼僧のため
に建立したもので、いつ頃からか
怪我をした人や病気になった人が



一宮町末木の「みそなめ地蔵」

味噌を塗ってお参りするようにな
りました。現在でも、時々お参り
をする人がいます。

一宮町末木の「みそなめ地蔵」
は、石幢（せきどう）の幢身を祀つ
たもので、六地蔵の祀られている
お堂の一番奥にあり、今でも味噌
が塗られています。また、よく見
ると六地蔵の口元にも味噌が塗ら
れており、現在でも厚く信仰され
ているのが分かります。

春日居町桑戸には、地蔵ではあ
りませんが、「おでにつちゃん」と
呼ばれている「みそなめの大日如
来（だいにちにょらい）」が4体祀



春日居町桑戸の「みそなめの大日如来」

られています。言い伝えでは、戦
国時代の弘治（こうじ）年間（155
5年～1557年）に、村人によつ
て河原の砂の中から掘り出された
もので、「体の痛いところがあつた
ら、同じところへ味噌をつけて祈れ」
というお告げがあり、村人がその
通りにしたところ、お告げの通り
治ったということです。その後、
地元の人たちによりお堂が建てら
れ、厚く信仰されてきました。現
在でも、多くの人が味噌を塗り、
病気や怪我の治癒を祈っています。